

## 中央図書館・地区図書館に関する分析と課題

目 次

- 1 中央図書館に関する分析と課題
- 2 地区図書館に関する分析と課題

## 1 中央図書館に関する分析・課題

	分析	課題
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出登録者数は増加傾向</li> <li>・貸出総合計、貸出利用者数は減少傾向</li> <li>・<u>学習室</u>、研究個室等の利用や新聞、雑誌の閲覧目的の利用も多い</li> <li>・視聴覚ブースの利用も年間約1万件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出登録者数の増加傾向の維持</li> <li>・貸出増加の促進</li> <li>・サービスの維持及び時代に即したサービスの工夫</li> </ul>
運営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者は、業務改善項目や利用者サービス向上のための取組みを積極的に実施</li> <li>・市から業務遂行に関する同様の指摘が繰り返し指摘される場合がある<sup>1</sup></li> <li>・利用者のニーズや時代の変化に、契約の範囲内で対応することが困難</li> <li>・市職員の司書資格者の割合は、平成18年度50%、平成30年度42.9%である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFIによる長期契約における柔軟性とインセンティブ<sup>2</sup>付与のための仕組みを構築</li> <li>・書架や閲覧席等備品のリスク分担の明確化</li> <li>・より適切なモニタリングの仕組みを構築</li> </ul>

<sup>1</sup>図書館での行事やPR業務については、これまでの月次のモニタリングの中でも市の指摘が多い。特に、平成25年以降は図書館利用の促進の観点から市の指摘頻度が増加している

<sup>2</sup>ここで言うインセンティブとは、民間事業者によるサービスの向上を促す動機付けを意味し、業務実態等の評価結果に応じて事業者を支払う対価を増減させる等の方法が例として挙げられる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の司書資格者の割合は、要求水準上、50%以上としており、維持している</li> <li>・市と事業者間で定期的に情報共有及び調整を行っている</li> </ul>	
--	--	--

利用状況に関しては、図書館や運営事業者の努力によって大きく変えることは難しいと考えられる。新聞、雑誌の閲覧や、視聴覚資料の視聴、学習室の利用など貸出・返却だけでなく長時間利用されている方も多い。ニーズの変化をとらえたサービスの提供等により、対応を実施することが重要である。

また、契約期間が長期にわたる場合は、適切な業務の履行確保と柔軟性の確保が必要と考える。

## 2 地区図書館に関する分析と課題

	分析	課題
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書貸出冊数において中央図書館を上回っている</li> <li>・ 貸出登録者一人当たりの図書貸出冊数が多い</li> <li>・ 貸出登録者数は減少傾向にある</li> <li>・ 児童（0～12歳）の図書貸出冊数の割合が中央図書館に比べて高い</li> <li>・ 近隣の利用者が多い</li> <li>・ 中央図書館に比べ、滞在時間が短い</li> <li>・ 各館で月1日、児童のための「おはなし会」を実施している</li> <li>・ 平成29年8月より市政情報センターの図書取次を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の更なる情報を発信と、貸出登録者数の増加</li> <li>・ 利用につなげるため、地域密着型の図書館として、魅力ある企画の実施</li> <li>・ 所蔵資料構成の充実</li> <li>・ おはなし会の参加者の増加</li> <li>・ 各複合施設との連携の強化</li> <li>・ 市政情報センターの図書取次サービスのPR</li> </ul>
運営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嘱託職員等により直営で運営しており、安定したサービス提供を行っている</li> <li>・ 複合施設のため、施設内での危機管理体制等の連携も整っている</li> <li>・ 地域の中学校から職場体験の受入要請もあり、複合施設全体で連携し受入れをしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のニーズに即したサービス提供を続けていくための安定した人員確保</li> <li>・ 実現可能なサービス向上の検討</li> </ul>

地区図書館に勤務する嘱託職員を対象として、利用方法などについてのヒアリングを行った。前述の分析結果はこれまでに蓄積されたデータやアンケートなどに基づくものであるが、ヒアリングは数値的にあらわれにくい地区図書館利用者の傾向を把握するためのものである。

主な内容としては、以下のとおりである。

- ・中、高年層は新聞・雑誌等の閲覧での利用が多い。
- ・平日は母子の来館が多く、午後になると小学生の利用も増える。また、土日は父子での利用が増える。
- ・貸出・返却の利用者は比較的滞在時間が短い。予約図書を受取のみの方も多。
- ・閲覧の利用者は数十分から数時間滞在される。長時間滞在される方は同じ方であることが多く、頻繁に利用している。
- ・およそ1～2か月に1度、近隣の保育所・幼稚園・学童クラブ・福祉施設等から利用がある。
- ・「ちいさい子のためのおはなし会」の参加人数は各館で多少差がある。「おはなしの森」は特定の方の参加が多い。
- ・閲覧席の増設・改善や読み聞かせスペースの設置について要望がある。

#### <まとめ>

- ・本を通じた親子の触れ合いの場となっている。
- ・いつも安心して利用してもらえる場となっている。
- ・地域に根差したサービス拠点として機能している。
- ・複合施設の利点を活かし、文化センター等と協力してサービス提供を行っている。

#### <課題>

- ・利用者層、利用方法の硬直化の緩和
- ・地域ごとの特色に合わせた継続的なニーズの把握およびサービス展開
- ・図書館の設備等の見直しや新たなサービスの検討